

琉球大学学術リポジトリ

沖縄返還交渉資料第3巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): 自治権拡大, 郵便貯金払戻し, 奄美群島復帰, 沖縄返還と防衛問題 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43629

建
青
会
に
お
け
る
政
務
次
官
換
符

(
知
!!
4
)

昭和四十二年十一月四日

沖縄、小笠原の施政権返還問題は、現在わが国国民の最大の関心事であり、政府としてもわが国の将来にかかわる重大問題としてこれに対処しているのであります。

佐藤総理は一昨年八月、歴代総理のうち初めて沖縄を訪問され、自ら現地の実情を見聞されました。以来政府は、教育、社会福祉、産業経済などの分野における本土と沖縄との格差の解消に努めることが当面の課題であるとして、これに努力してきましたのであります。この結果、沖縄に対する援助額の大巾の増額による沖縄同胞の福祉の向上、住民自治の拡大、沖縄と本土との一体化の促進等々の分野で少なからぬ成果を収めてきたのであります。

しかしながら、政府の関心は、この分野での事態の改善にとどまっております。戦後二十二年を経た今日、九十五万にのぼる同胞が今なお外国の施政権下にあることはまことに不自然な状態と申さねばなりません。このような状態がいつまでも続くことは日本国民にとつて不幸であるばかりでなく、長い目でみれば、日本と極東の安全保障に対する日米両国の円滑な協力関係を維持して行く上にも支障があることがおそれられるのであります。

今日、わが国国民の沖縄問題の現実に対する認識が深まり、施政権の早期返還のため政府の具体的施策を期待する声が高まっております。他方米国の朝野においても、沖縄問題をこのまま放置することは今後の日米関係に悪影響を及ぼすとの認識が僅かづつでは

ありますが、生まれてきております。

佐藤総理は、かかる情勢を背景として来たる十二日に訪米されます。総理がこの機会に、沖繩、小笠原の施政権返還問題について、ジョンソン大統領を始め、米国政府の首脳と卒直に話し合われることはもちろんであります。

沖繩、小笠原問題の核心は、国民の願望とわが国を含む極東の安全保障上の要請をいかに調和させるか、いい換えれば、わが国を含む極東の安全保障に対し、今後沖繩が果して行く役割りをどのよう
に考へて行くべきかにあります。

このように、沖繩、小笠原の問題は、わが国の安全保障とも関係する高度に政治的問題であります。また、今日のアジアの情勢から

みてもこの問題の解決にはなお容易ならぬものがあることは卒直に認めざるをえません。しかしながら、私は、この問題は日米両国の友好信頼関係の枠で解決しうるものであり、またそのよりな形での解決が、最善、かつ、最短の道であることを確信するものであります。

そして、私は、佐藤総理の訪米の成果が、いかなるものであるにせよ、それがこの困難な問題の解決に向つて一歩前進となることを期待するものであります。また、それがこの問題を日米相互信頼に基づいて解決しうるとの国民の確信を強めるごときものでありうと信ずるものであります。

もとより、政府が外交の分野において成果を挙げるためには、国

民の理性的な世論の強力な支持が必要です。

私はこの機会をかりて、沖縄、小笠原問題に深い関心を寄せられる皆さんに対し、今後とも、この問題に建設的に取組み、政府の努力に対し理解と支持を与えられんことを要望いたしましたのであります。

同時に、私は、本日の皆様の熱意ある期待と御要望を総理にお伝えして、これを訪米の成果に生かしていただくようお願いすることをお約束して御挨拶いたします。